

取扱説明書

エアーハイドロリックトラックジャッキ

NTJ-27A NTJ-27S

NTJ-35A NTJ-35S

NTJ-35SH

NTJ-40A NTJ-40S

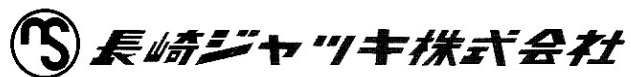
NTJ-20W-120H

NTJ-20W-135H

NTJ-20W-150H



本製品を使用する前に取扱説明書を注意深く読み、よく理解してから使用して下さい。
この取扱説明書はいつまでも使用できるように大切に保管してください。



取扱説明書が現品と異なる場合は、販売会社まで請求してください。

まえがき

このたびは、長崎ジャッキのエアードロリックトラックジャッキをお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。


ご使用になる前に必ずこの取扱説明書を注意深く読み、よく理解してから使用して下さい。取扱説明書の中の注意事項及び使用方法等をよく読んで使用頂かないと、十分能力を発揮できないばかりか車の落下や人身事故につながりますので、十分理解した上で、正しく使用して下さい。


お買い上げの製品や取扱説明書の内容について、ご質問がある場合は、お買い上げ頂きました販売会社まで問い合わせして下さい。


尚、取扱説明書及び警告ラベル等貼付ラベルは大切に使用して下さい。万一紛失・汚損された場合は速やかに購入の上、正しく保管又は貼付して下さい。

警告

この取扱説明書では「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は安全作業のために重要な事柄です。人身事故や財物損害防止の為に重要な事項が記載されていますので、必ずよく理解してから使用して下さい。

 **危険**・・・取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡又は重症を負う危険が切迫して生じる事が想定される場合。

 **警告**・・・取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡又は重症を負う可能性が想定される場合。

 **注意**・・・取り扱いを誤った場合に、使用者が損傷を負う危険が想定される場合及び物的損傷のみ発生が想定される場合。

目次

1.使用目的	3
2.危険・警告・注意事項	3
2-1 危険事項	3
2-2 警告事項	3
2-3 注意事項	4
2-4 ラベルの貼付位置とラベルの名称	5
3.構造及び各部の名称	5
3-1 チューブの取り付け方	5
3-2 ジャッキとコンプレッサーの取り付け方	5
3-3 構造及び各部の名称	7
3-4 安全装置	7
4.使用方法及び使用上の注意	8
4-1 始業点検	8
4-2 ジャッキを使用する床条件	9
4-3 ジャッキポイントとジャッキの使用方向	9
4-4 上昇及び停止操作	9
4-5 リジッドラック(馬ジャッキ)使用時の注意	10
4-6 下降操作	11
4-7 終業点検と保管	11
5.定期点検	12
5-1 点検	12
5-2 可動部への給油	13
5-3 作動油の種類と交換・補給	14
6.故障と処置	15
7.仕様	16
8.製品保証規定	16

1.使用目的


このエアードロリックトラックジャッキ(以下ジャッキと言う)は、トラック・バス等をリジッドラック(馬ジャッキ)で保持させ、タイヤ交換及び各種整備をするために上昇・下降させるジャッキです。このジャッキは、ジャッキアップ状態での洗車作業には使えません。

2.危険・警告・注意事項

このジャッキをご使用頂く上での人身事故や車の損傷を防止するための重要な事柄が記載されていますので、必ずよく読みよく理解してから使用して下さい。






2-1 危険事項

危険

	ジャッキアップ状態で車の下での作業は禁止。 ※死亡または重症の危険があります。
---	--

2-2 警告事項

警告

	取扱説明書をよく読み、よく理解してから使用する事。 ※重要な警告事項が説明されています。警告事項に従ってください。重大な事故につながります。
	操作は、操作方法を熟知した人以外使用禁止。 ※誤った操作方法が原因で思わぬ事故が発生します。
	純正アタッチメント以外の使用禁止。 ※昇降中の振動でカイモノが外れ、車の落下の危険があります。
	傾斜地や軟弱な場所での使用禁止。 ※傾斜地や軟弱な場所で使用すると、ジャッキが傾き、車の落下による重大な被害が発生します。
	リジッドラックを必ず使用する事。 ※ジャッキアップ状態での作業は、受金が外れた時に、死亡や重傷の危険があります。

注意

2-3 注意事項

一般的な注意

- 1.使用目的以外の使用禁止。
- 2.安全弁(安全装置)を絶対に調整や改造をしない事。
- 3.自動車整備以外での使用禁止。
- 4.能力以上の使用禁止。
- 5.2台以上の同時使用禁止。
- 6.保管場所は、ハンドルが倒れても人や車にぶつからない屋内に保管のこと。
- 7.ジャッキの改造は禁止。
- 8.洗車作業での使用禁止。
- 9.オイルは弊社指定のジャッキオイルを使用のこと。重粘度のオイル、ブレーキオイル等は絶対に使用しないこと。
- 10.規定圧力で使用のこと。

使用上の注意

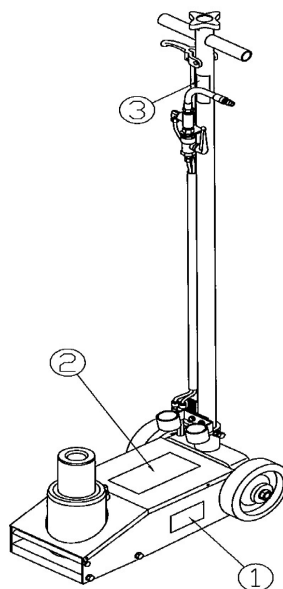
- 1.作業前に必ず始業点検を行うこと。
- 2.ジャッキの昇降操作中は車の状態に注意し、わき見運転は絶対禁止。
- 3.荷物や人を載せたままでの使用禁止。
- 4.車の昇降時には、他の人を車に近付けたり、ジャッキや車に触れさせないこと。
- 5.エンジンをかけたままの使用禁止。
- 6.車のパーキングブレーキを効かせること。
- 7.上昇させる反対側の前後車輪に輪止めをかけること。

操作上の注意

- 1.アタッチメント及び受金はジャッキポイントに確実にセットすること。
- 2.アタッチメント及び受金の中心に負荷すること。
- 3.下降操作前にジャッキ周辺の安全を確認すること。
- 4.偏荷重での使用禁止。
- 5.上昇作業中はアタッチメント及び受金に確実にセットされていることを確認しながら操作のこと。
- 6.急激な下降操作はしない事。

2-4 ラベル貼付位置とラベルの名称

①	型式・能力ラベル
②	警告ラベル
③	注油ラベル



⚠ 注意

警告ラベルは大切に使用して下さい。はがれや汚損された場合は、お買い上げの販売会社から購入の上、正しく貼付して下さい。

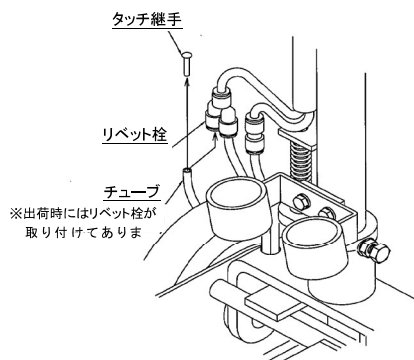
3.構造及び各部の名称

3-1 チューブの取付け方

- 1.チューブからリベット栓を取り除く
- 2.チューブをタッチ継手へ押し込む

3-2 ジャッキとコンプレッサーとの取り付け

- 1.エアホースのエア入口にはカプラー(20PH 日東工器)が取り付けられています。適合するカプラーソケットをコンプレッサーからエアホースに取り付け、接続して下さい。
- 2.コンプレッサーからエアジャッキまでのエアホースの長さは可能な限り短くして下さい。また、内径 8.0 mm以上のホースを使用して下さい。



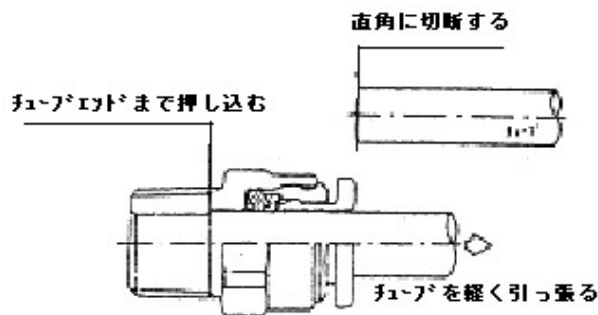
⚠ 注意

- 1.ホースは必要以上に長くしないで下さい。圧力の低下につながります。
- 2.コンプレッサー配管出口には必ずレギュレーター、エアフィルター、オイルを取り付けて下さい。
- 3.必ず 0.8~0.97Mpa(8~9.9Kgf/cm²)の圧力にレギュレーターで調節し使用して下さい。
- 4.コンプレッサーの所要動力 2.2kw 以上を使用して下さい。

タッチコネクタと
エアチューブ着脱操作方法

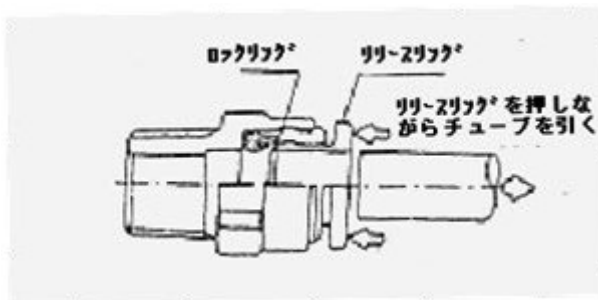
【チューブの接続】

- 1.チューブは専用のカッターを用い、直角に切断して下さい。
- 2.チューブを継手に差込み、チューブエンドまで確実に押し込んで下さい。
- 3.接続が完了したら、チューブを軽く引っ張り緩みや抜けがないことを確認して下さい。接続が完全でないと、エア漏れやチューブ抜けの原因となり危険です。



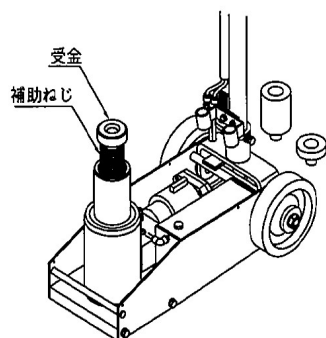
【チューブの分離】

- 1.リリースリングを継手側に十分押し込みながらチューブを引いて下さい。
リリースリングの押し込みが不十分だと、チューブは逆に食い込み抜けなくなる場合があります。
- 2.「チューブが抜けない」と感じた場合、一旦分離操作を止め、チューブを継手に押し込んだ後、再度分離操作を行って下さい。この場合、チューブと接続部品(ロックリング)の食い込みを離し、元の状態に戻すことが肝要です。
- 3.分離したチューブを再度接続する場合、前の接続部分を切断し、新しい端面で行って下さい。チューブ分離の際、接続部品との圧痕や引き傷によってエア漏れや、チューブが抜けなくなる現象を起こす場合があります。



3-3 構造及び各部の名称

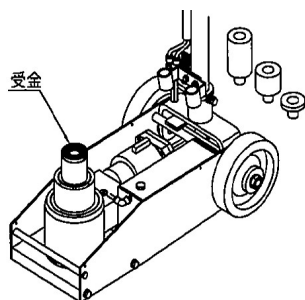
NTJ-27S、35S、35SH、40S



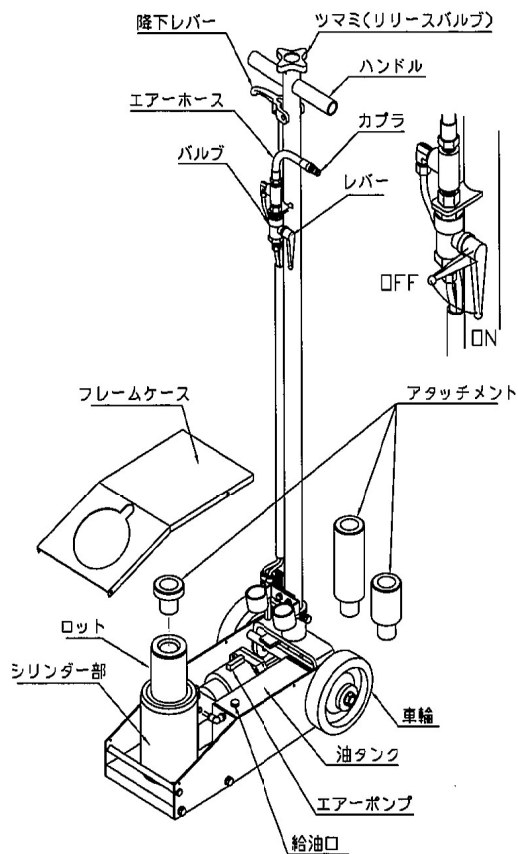
NTJ-20W-120H

NTJ-20W-135H

NTJ-20W-150H

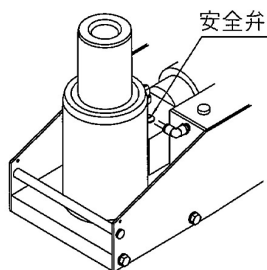


NTJ-27A、35A、40A



3-4 安全装置

安全弁(安全装置)は、ジャッキの能力を越える車を上昇させようとした時、また、何らかのトラブルで油圧力が異常に上昇した時に油圧を逃してジャッキの破損や事故を防止するものです。



⚠ 警告

安全弁(安全装置)の調整や改造は絶対にしないこと。安全弁(安全装置)が作動しないで、重大な事故につながります。

4.使用方法及び使用上の注意

警告

このジャッキの操作は、使用方法を熟知した人以外使用しないこと。

4-1 始業点検

毎日作業前に必ず始業点検を行って下さい。なお点検はジャッキに車を載せない状態で行って下さい。

注意

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまでジャッキの使用を禁止して、直ちに販売会社に連絡して下さい。そのままお使いになりますとジャッキの破損及び重大な事故につながる危険があります。

☞7 ページの各部の名称を参照して下さい。

点検箇所	内容	点検方法
供給エア	①圧力は 0.97Mpa(9.9kgf/cm ²)以下か ②清浄なエアか ③潤滑油が供給されているか	①圧力計にて測定 ②フィルターを点検 ③ルブリケーターを点検
アタッチメント	変形、破損、摩耗はないか	目視
補助ネジ・ロッド	各部に変形、破損、摩耗はないか	目視
車輪	スムーズに回転するか 各部に変形、破損、摩耗はないか	目視及び移動させて点検
ジャッキ部	上昇、下降を行った時、円滑に作動し、異音はないか	目視・聴視
ジャッキ部回り	油漏れはないか	目視
各ネジ部(ボルト・ナット類)	変形、破損、緩みはないか	目視・スパナ等にて点検
止めリング・割ピン類	変形、破損、外れはないか	目視
エアホース	変形、破損、ヒビ割れ、抜けはないか	目視
バルブレバー(エアバルブ)	変形、破損、緩みはないか	目視・スパナ等にて点検
エアポンプ	作動音はリズムカルか	聴取

注意

1.増し締めを行う場合は取扱説明書 15 ページの表ねじの締め付けトルク欄を目安に増し締めを行って下さい。
2.ジャッキのシリンダー本体部、エアシリンダ本体部は増し締めを行わないで下さい。
増し締めを行う場合はお買い上げの販売会社へ連絡して下さい。

4-2 ジャッキを使用する床条件

⚠ 警告

傾斜地や軟弱な場所では使用しないで下さい。ジャッキが傾き、受金、アタッチメントが外れ、車の落下による死亡や重傷の危険があります。また、傾斜地ですと、車が動き出して重大な事故になります。必ず、平坦な硬い床で使用して下さい。

4-3 ジャッキポイントとジャッキの使用方向

⚠ 警告

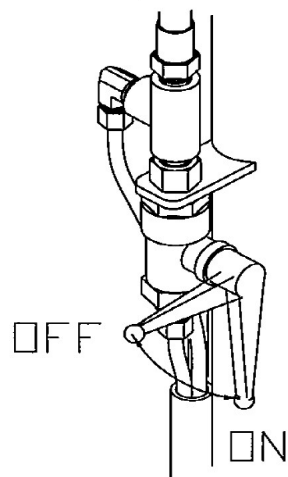
- 1.車を支持する場合は、自動車メーカーが指定するジャッキポイントとし、他の部分で支持しないで下さい。車の変形・荷重バランスの悪化により重大な事故につながります。
- 2.必ずアタッチメント(受金)の中心に荷重がかかるようジャッキポイントにセットして下さい。
- 3.偏荷重での使用はしないで下さい。

4-4 上昇及び停止操作

☞7 ページの各部の名称を参照して下さい。

1) 上昇操作

- 1.ロッド頭部(Aタイプ)、補助ネジ頭部(Sタイプ)に受金部(Wタイプ)にアタッチメントを装着してご使用下さい。
頭部穴がつぶれてアタッチメントが入らなくなる場合があります。
- 2.補助ネジ(Sタイプ)を右に回すと補助ネジ高さは低くなり、左に回すと高くなります。ジャッキポイント高さに合わせて調整して下さい。
- 3.ツマミ(リリースバルブ)を時計回りに回転が止まるまで回し、バルブレバーをON方向に押しますと、エアポンプが作動し、ロッドが上昇します。



⚠ 注意

- 1.わき見をしながらの操作はしないで下さい。重大な事故につながります。
 - 2.能力を越える車は、ジャッキアップしないで下さい。ジャッキの損傷につながります。
- ※ バルブのレバーを ON.OFF へ切り替える際に、バルブよりエアーが出ます。故障ではありませんので予めご了承ください。

2) 停止操作

バルブレバーをOFF方向に戻すと、ロッドはその位置で停止します。ロッドは荷重を保持したままになります。

注意

- 1.ロッドを上昇させ、アタッチメント及び受金が車にあたった時点で一旦停止させ、アタッチメント及び受金が車の正しいジャッキポイントにセットされていることを確認して下さい。もし合っていなかったら、一旦下降させ正しいジャッキポイントに調整して下さい。
- 2.異常が発生した場合、車を下降させ、異常箇所の修復を完全に行うまでジャッキの使用を禁止して、直ちに販売会社に連絡して下さい。

3) 揚程制限

最高位に達してもエア操作を行っても、それ以上の上昇はいたしません。最高位に達し上昇が停止したら、直ちにバルブレバーをOFF方向に戻し、作動を停止して下さい。

注意

- 1.車の上昇量は、リジッドラック(馬ジャッキ)をかけることができる最少量として下さい。必要以上の上昇はリジッドラックの位置決めがしづらいためばかりか、車の落下や人身事故につながります。
- 2.最高位に達したら、直ちにバルブレバーをOFF方向に戻し停止して下さい。必要以上の操作はジャッキの損傷につながります。

4-5 リジッドラック(馬ジャッキ)使用時の注意

注意

- 1.自動車メーカーが指定するジャッキポイントとし、他の部分では支持しないで下さい。
- 2.リジッドラックは、左右高さを揃えて使用して下さい。
- 3.リジッドラックの能力をこえる車を載せないで下さい。
- 4.リジッドラックの取扱説明書をよく読み理解してから正しくご使用下さい。

4-6 下降操作

☞7 ページの各部の名称を参照して下さい。

1. ツマミ(リリースバルブ)を反時計方向にゆっくり回し、車を徐々に下げます。
2. 車のジャッキポイントより下は、エア圧力で自動降下しますので、ツマミを更に回して下さい。

警告

車を上昇・下降させる場合に車の下、または周辺に人や物がないことを確認して下さい。
重大な事故につながります。

注意

1. ツマミ(リリースバルブ)は、ゆっくり回して下さい。
早く回すと車は急激に下降し、ジャッキポイントが外れたりする場合があります、重大な事故につながります。
2. 下降中の車を急停止させないで下さい。車の落下やジャッキが破損する場合があります。
3. 必ずエアを接続した状態で下降操作を行なってください。エアを接続しないと、無負荷時は下降しません。

4-7 終業点検と保管

作業が終了したらアタッチメントやロッド、フレーム部に付着したゴミ、オイル、グリース等をきれいに拭き取って下さい。この時、警告ラベル等が汚れで見えなくなったり、ジャッキ本体に異常が発見された場合、直ちに販売会社にご連絡していただき処置して下さい。

注意

1. ハンドルが倒れても、人や車等にぶつからない屋内に保管して下さい。
2. 必ずハンドルをロックして屋内に保管して下さい。

5.定期点検

5-1 点検

安全に使用していただくために、必ず定期点検を実施して下さい。

点検期間	点検箇所	点検項目	点検方法	保守要項
始業時	供給エア	①圧力は 0.97Mpa(9.9kgf/cm ²)以上か ②清浄なエアか ③潤滑油が供給されているか	①圧力計にて測定 ②フィルターを点検 ③ルブリケータを点検	①指定圧力以下にする ②汚れ、目つまりは洗浄 か交換する ③潤滑油が不足時は補給 する
	アタッチメント	①変形、破損、摩耗 ②回転はスムーズか	①目視 ②回す	①破損、変形、著しい摩耗 は交換 ②給油
	補助ネジ (頭部も含む)	変形、破損、摩耗	目視	破損、変形、著しい摩耗は 交換
	車輪	①変形、破損、摩耗 ②回転はスムーズか	①目視 ②車を乗せないで 前後移動させ、 聴取・目視	破損、変形、著しい摩耗は 交換
	ジャッキ部	変形、破損、摩耗 油漏れ 異音はしないか	上昇下降操作を行 い、聴取・目視	破損、変形、著しい摩耗、 及び油漏れは交換
	各ネジ部 (ボルト・ナット類)	変形、破損、緩み	目視、スパナ等にて 点検	・緩みは増し締め ・変形、破損は交換
	止めリング 割ピン類	変形、破損、外れ	目視 触感	・外れは組み直す ・変形、破損は交換
	エアホース	変形、破損、ヒビ割れ、緩み(抜け)	目視	破損、変形、著しい摩耗は 交換
	エアポンプ	作動音はリズムカルか	聴取	不規則な作動音は販売会 社に相談
	バルブレバー (エアバルブ)	変形、破損、エア漏れ	目視	破損、変形、エア漏れ は交換

2 週間	ハンドル	①変形、破損、摩耗 ②しゅう動する軸、穴部操作は スムーズか異音はないか	①目視 ②聴取	破損、変形、著しい摩 耗は交換
3 ヶ月	油タンク	作動油量の確認	目視	不足は補給
12 ヶ月	油タンク	作動油の確認		交換

※ジャッキオイルの補給は、ロッドを最低位置まで下げ、オイルタンクの給油栓を外し、給油口より指定の高さ
(14 ページ参照)までジャッキオイルを補給して下さい。

給油時には、必ずエアークプラを外してから行って下さい。

⚠ 注意

- 1.2 週間に一度はエア操作でロッドを上下させて下さい。長時間ジャッキを使用しないとエアポンプ側
(ピストン部)から油が抜け、使用時にエアを吸い込みロッドが上がらない場合があります。
- 2.カバー等を外して点検した後は、必ず元通りすべて取り付け復元をして下さい。
- 3.点検の結果、異常が発見された場合には、直ちにジャッキの使用を禁止して、お買い上げの販売会社へ連絡
して頂き、処置を受けて下さい。
- 4.増し締めを行う場合は 15 ページねじ締め付トルク欄を目安に増し締めを行って下さい。

5-2 可動部への給油

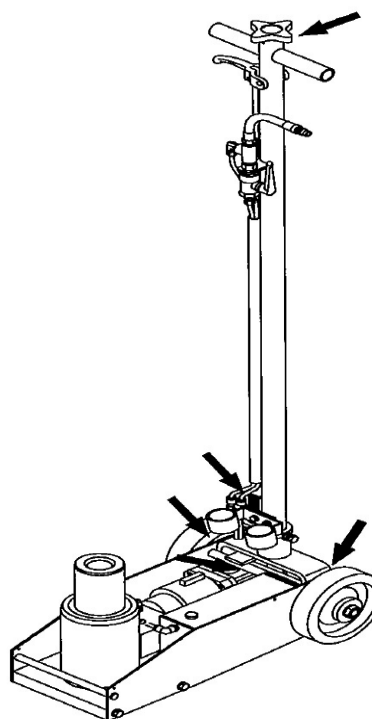
※2 週間に1度以上行って下さい。

潤滑油: マシン油

グリース: スプレー式グリース等、浸透性の良い

グリースを使用して下さい。

↓ 部は給油箇所
(潤滑油又はグリース)



5-3 作動油の種類と交換・補給

初回の作動油交換は、3ヶ月経過した時点で行って下さい。

次回からは12ヶ月点検時に行って下さい。

⚠ 注意

- 1.補給・交換用のジャッキオイルは、弊社指定ジャッキオイル又は、下記に示すオイルを使用して下さい。
- 2.重粘度のオイル・ブレーキオイル・揮発性のオイル・植物油オイル等は絶対に使用しないで下さい。
パッキン・ガスケットの機能が低下し自然効降下の原因となります。

ジャッキの油量

型式	総油量(cc)
NTJ-27A	800
NTJ-27S	
NTJ-35A	900
NTJ-35S	
NTJ-35SH	1100
NTJ-40A	950
NTJ-40S	
NTJ-20W-120H	700
NTJ-20W-135H	800
NTJ-20W-150H	1100

作動油の種類

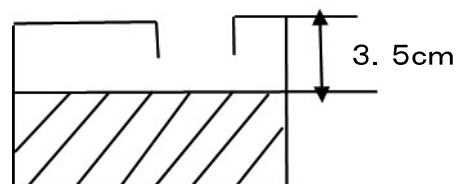
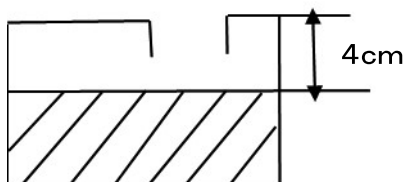
メーカー名	作動油名
JX 日鉱日石エネルギー	ハイランドワイド 15
コスモ	コスモハイドロ HV15K
昭和シェル	シェルテラス S2V15
モービル	モービル DTE10Excel15

※補給の場合

給油口より指定の高さまで給油して下さい。

・NTJ-27A,NTJ-27S,NTJ-35A,NTJ-35S,NTJ-35SH,
NTJ-40A,NTJ-40S,NTJ-20W-135H,NTJ-20W-150H

・NTJ-20W-120H



⚠ 注意

- 1.給油・補給は必ず受皿を最低位まで下げた状態で行って下さい。
- 2.ジャッキオイルを補給する場合、必ずエアークプラを外してから行って下さい。
- 3.油を入れ過ぎますと、上昇する速度の低下の原因となります。

6.故障と処置

「故障かな」と思われる前にもう一度確認して下さい。異常が生じた時は、この取扱説明書をよくお読み頂き、下記の点検をした上で、それでも不具合な場合はお買い上げの販売会社へ相談して下さい。

症状	原因	処置
全然上がらない	①ツمامミ(リリースバルブ)が完全に閉まっていない。 ②ジャッキオイルが入っていない。	①ツمامミ(リリースバルブ)を確実に閉める。 ②ジャッキオイルを補給する。※
途中までしか上がらない	ジャッキオイルが不足している。	ジャッキオイルを補給する。※
自然降下する	ツمامミ(リリースバルブ)が完全に閉まっていない。	ツمامミ(リリースバルブ)を確実に閉める。
下がりきらない	しゅう動部に給油されていない。	しゅう動部に給油する。
エアープンプ作動しない	①エアープンプ圧力が不足又は過多である。 ②エアープンプ内に油分が無くなり、摩擦が大きくなっている。(油切れ状態)	エアープンプ圧力を適正な値にする。 エアープンプ口より油を少量注油する。

※ジャッキオイルは、13 ページの 5-3 作動油の種類と交換・補給をご参照ください。

参考:ねじ締付トルク ※ジャッキのシリンダー本体部は増し締めをしないで販売会社へ連絡して下さい。

ねじの締付トルクについては、建築用高力ボルト以外に JIS でははっきりと定められていません。はめ合いの硬さ加減や接触面のすべり具合の状態から数値を示すことは至難であります。目安が何も無い事は現場において不安であり、不便でもあるので、参考までに下記に示します。

ねじの呼び	普通のボルト	六角穴付ボルト・高張力ボルト
強度区分	4.8	12.9
M8 × 1.25	12.3 N・M	38.5 N・M
M10 × 1.5	24.4 N・M	76.4 N・M
M12 × 1.75	42.5 N・M	133.3 N・M
M16 × 2.0	105.7 N・M	331.0 N・M
M18 × 2.5	145.5 N・M	455.5 N・M
M20 × 2.5	206.3 N・M	645.8 N・M
M24 × 3.0	356.7 N・M	1116.7 N・M
M30 × 3.5	708.7 N・M	2218.4 N・M

※ジャッキのシリンダー本体部は増し締めをしないで販売会社へ連絡して下さい。

7.仕様

型式	能力 (ton)	最低位 (mm)	最高位 (mm)	揚程 (mm)	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	フレーム 高さ (mm)	補助 ネジ (mm)	標準 アタッチメント (mm)	自重 (kg)	作動空気圧 Mpa(kgf/cm ²)	コンプレッサー 主要動力(kw)		
NTJ-27A	27	205 ※1	445	105	500	315	1,390	135	-	15L、75L、150L	40	0.8~1.0 (8~10)	3.7(5)		
NTJ-27S		210	455 ※2						65	15L、75L					
NTJ-35A	35	205 ※1	440	100					325	145	-			15L、75L、150L	42
NTJ-35S		210	450 ※2								65			15L、75L	
NTJ-35SH		270	560 ※2								150			65	15L、75L
NTJ-40A	40	210 ※1	445	100					315	1,375	120			-	15L、75L、150L
NTJ-40S		215	455 ※2		65	15L、75L									
NTJ-20W-120H	1 段目 40	120	320	100	490	1,390	135	-						8L、50L、100L	39
NTJ-20W-135H		135	355	120	500			65							40
NTJ-20W-150H	2 段目 20	150	400	150	500	325	145	-							43

※品質向上の為、予告なく仕様は変更することがあります。

※1:Aタイプの最低位は15Lアタッチメントを装着した状態の最低高さです。

※2:最高位は一番長いアタッチメントを装着し、補助ネジを65mm伸ばした状態での最高位です。

8.製品保証規定

1)保証規定

取扱説明書、本体注意書きに従って正常な使用状態で保証期間内(納入後一年以内)に故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて修理させていただきます。但し、二次的に発生する損失の保証及び、次の場合に該当する故障は保証致しておりません。

- 1.使用上の誤り、保守点検、保管等の義務を怠った為に発生した故障及び損傷。
- 2.製品の作動機構に悪影響を及ぼす変更(改造)を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
- 3.消耗品が損傷し取替えを要する場合。
- 4.火災・地震・風水害・その他天災地変等、外部に要因がある故障及び損傷。
- 5.指定された純正部品を使用されなかった時に起因する場合。
- 6.日本国外で使用される場合。
- 7.保証請求手続きが不備の場合(例:型式及び機体番号の連絡がない場合など)。尚、本製品及びその付属品に使用されているゴム部品等のあらゆる自然消耗する部品、ならびに消耗部品につきましては、保証の適用は除外させていただきます。

注意

このジャッキは洗車仕様になっておりませんので、錆、腐食等の水による故障は保証いたしておりません。

(2)保証請求方法

前記の規定に基づき、本製品の保証請求を行う場合は、お買い上げの販売会社までご一報下さい。販売会社において必要な手続きを実施いたします。

尚、保証の要否は、大変勝手ながら弊社において判断させていただきますのでご承知下さい。

(3)アフターサービスについて

- 1.調子が悪い時……………まずこの取扱説明書の[6.故障と処置]の項目をもう一度ご覧になって調べて下さい。
- 2.それでも調子が悪い時は……商品保証規定に従い修理させていただきますので、お買い上げの販売会社へ修理依頼して下さい。
- 3.保証期間中の修理について……保証期間は納入後 12ヶ月以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理させていただきます。
- 4.保証期間後の修理について……有償で対応させていただきます。
- 5.アフターサービスについての詳細・その他ご不明な点は、お買い上げ頂いた販売会社へお問い合わせ下さい。
- 6.お問い合わせ頂く場合は、次の事項をお知らせ下さい。

型式・機体番号・購入年月日・故障状況(できるだけ詳しく)

上記事項を下表に必ず記載して下さい。

型式	
機体番号	
購入年月日	
購入店名	社名： 担当者： 住所： 電 話：
故障日・状況	年 月 日
故障日・状況	年 月 日

-MEMO-

お問い合わせは

販売会社名

販売会社へのお願い、この取扱説明書はお客様に必ずお渡しください。

長崎ジャッキ株式会社

〒447-0854

愛知県碧南市須磨町5番地2

TEL 0566-41-1482

FAX 0566-42-0709